

授業科目 セルフケア看護学演習

【担当教員名】 新谷恵子		対象学年	2	対象学科	看護
		開講時期	前期	必修・選択	必修
		単位数	1	時間数	30
【＜概要＞又は＜一般目標：G I O＞】					
1. PBLチュートリアル教育では成人の慢性的な健康障害に焦点をあて慢性期看護を理解する。					
2. 健康維持を目的とした生涯にわたるセルフケアの重要性を理解し、対象の持つセルフケア能力の維持・向上を目指す援助に必要な理論と方法を学ぶ					
【＜学習目標＞又は＜行動目標：S B O＞】					
1. PBLチュートリアル教育により慢性期看護を理解する。					
2. セルフケアの概念について理解する。					
3. セルフケア能力を高める理論と概念を理解する。					
4. セルフケアのレベルと各レベルの低下状態の支援を理解する。					
5. セルフケアの評価と再獲得を目指す支援を理解する。					
6. 生活習慣病の予防とヘルスプロモーションの促進について理解する					
7. セルフケアの再獲得の支援を事例で理解する。					
回数	授業計画又は学習の主題	SBO			
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員		
1～6	PBLチュートリアル教育による慢性期看護の理解（課題1. 慢性腎不全のある58歳男性の継続的な生活調整が必要な人）	1	PBL学習・成人看護学領域担当教官全員		
7	セルフケアの理解（セルフケアの概念、セルフケアの必要性評価、依存と自立、QOL、アドボカシー）	2	講義・新谷		
8	セルフケアに活用する理論・概念とセルフケア維持のための行動の理解（自己効力感、保健信念、オレムのセルフケアモデル、変化のステージモデル、コントロール所在、アドヒアランス、エンパワーメント、健康モデル、アンドラゴジー）	3	講義・新谷		
9	生命維持、生活基本行動、社会生活レベルのセルフケアおよび各レベル低下と再獲得	4	講義・新谷		
10	セルフケアレベルのアセスメント（形態・機能レベル、障害レベル、原因レベル、能力レベル）と再獲得を支援する法的システム	5	講義・新谷		
11	セルフケアと生活習慣（健康教育、ソーシャルサポート）	6	講義・新谷		
12～15	セルフケア再獲得のレベル別の支援事例（生命維持レベル、生活基本行動レベル、在宅レベル、職業生活レベル）	7	グループディスカッション・成人看護学領域担当教官全員		
【使用図書】		＜書名＞	＜著者名＞	＜発行所＞	＜発行年・価格・その他＞
教科書 （必ず購入する書籍）		特に指定しない			
参考書		オレム看護論入門、小野寺杜紀、医学書院／成人看護学概論、大西和子、ヌーベルヒロカワ／セルフケアの再獲得、鈴木純恵、メデイカ出版／NANDA-I看護診断（定義と分類）医学書院			
その他の資料		健康行動理論の基礎、松本千明、医歯薬出版／健康動理論実践編、松本千明、医歯薬出版／臨床看護総論、岩井郁子、医学書院			
【評価方法】		【履修上の留意点】			
参加状況（20％）、試験（60％）、レポート（20％）により評価する		1回から6回まではPBLチュートリアルで慢性期看護を学習します。その後7回目からセルフケア看護学を学びます。また、最終に行うグループディスカッション後、課題レポートを提出していただきます。授業でできることは限られているので、自ら積極的に文献を読むことを期待します。			